

パチンコ・パチスロ依存問題の予防と解決に取り組む事業・研究への支援

「パチンコ・パチスロ依存は『病気』ではなく、『健康問題』であることを周知する」事業

依存問題を健康問題として捉える考え方を伝えるため、健康増進のランニングイベントや啓発セミナーを開催

我が国初のギャンブル依存症回復（入所）施設として、2000年に設立された「ワンデーポート」は、依存問題を持つ人や家族への相談支援、セミナーを通じての普及啓発など、設立直後から個々の利用者の課題に寄り添い、常に新しい視点での支援活動を行うとともに、「リカバリーサポート・ネットワーク」やパチンコ関係団体などとも交流を続けている。

毎月第3土曜日のランニングイベントでのめり込みの予防や自己解決を促す

「ギャンブル等依存症」は国家が取り組む課題となり、国の定めた基本計画のもと、行政機関や医療機関が中心となって相談支援事業などが実施されている。しかし、こうした取り組みは、自分たちのこれまでの活動を通して見えてきた必要な対策とは開きがあると、「ワンデーポート」では考えている。WHOが作成した国際疾病分類の第11回改訂版（ICD-11）では、ギャンブルへののめり込みを「ギャンブリング障害」として危険なギャンブリングに分類しているが、同時にそれを「健康問題」としている。健康問題であれば、自己解決を主とした啓発やサポートが必要なのは、我が国ではそのような対策が国でも民間でもほとんど行われていない。

ワンデーポートではこうした状況を考慮して、パチンコ・パチスロ依存は健康問題であることを周知するとともに、依存症当事者を対象に、毎月第3土曜日に横浜市の関内～港の見える丘公園～山下公園～みなとみらい間のコースをランニングするイベント「よこはまラン」を開催している。2024年は累計104人が参加したが、当事者以外に医療福祉関係者なども参加し、立場を超えた交流をした。また、11月9日には和歌山県で「遊び」をテーマにしたセミナーを開催し、20人の参加者が集まった。こうしたイベントを通じてのめり込みの予防や自己解決を促すことで、依存問題の解決には身体的健康が大事だということを伝えることができた。これらの事業の成果や課題は、会報やSNSなどを介して広く発信している。



パチンコ・パチスロ依存は健康問題であることを周知する「よこはまラン」を開催



「遊び」をテーマにしたセミナーを開催

助成団体:特定非営利活動法人 ワンデーポート

<http://www5f.biglobe.ne.jp/~onedayport/>



予防や自己解決を促すことで依存問題に対する誤解と偏見を解く

国の基本計画では、依存問題に対する予防や自己解決が示されていません。依存を「自己解決はない精神疾患」と見なすことで、我が国では依存問題への誤解と偏見が増長されています。POSCにおいては、科学的根拠を伴った事業に助成されることを希望します。

特定非営利活動法人 ワンデーポート
施設長 中村 努さん

パチンコ・パチスロ依存問題の予防と解決に取り組む事業・研究への支援

「依存症により罪を犯した人たちへの回復支援」事業

罪を犯した人たちの更生を阻む要因の一つとなっている 依存問題を解決するためにスタッフのスキル向上

少年院や刑務所を出所した人たちが再犯に至る要因の一つとして挙げられているのが、薬物、アルコール、ギャンブルなど様々な依存の問題である。非行や罪を犯した人たちの自立に欠かせない住まいを提供し、就労支援を行う自立準備ホームの全国組織が、ホームのスタッフの対応能力や態勢の強化のため、専門家を招いた勉強会や研修会を実施した。

困難を抱えた依存当事者の自立を支える スタッフの態勢強化を図る取り組み

「日本自立準備ホーム協議会」は、非行や犯罪により家族や地域社会から排除され、住まいや職を失った人たちに居室を提供し、就労支援などを含めて自立更生をサポートする「自立準備ホーム」（以下、ホーム）の全国組織として、2022年3月に設立した。

各ホームは法務省の保護観察所に登録され、2023年4月現在、全国に530事業所がある。ホームに入所する人たちのなかには、薬物、ギャンブル、アルコールなどの依存症者も多く、そうした困難を抱えた人たちへの適切な対応が求められているものの、多くのホームでは職員やスタッフの態勢が脆弱で、十分な勉強や研修もできないのが現状である。

こうした課題に対処するため、日本自立準備ホーム協議会では2024年にPOSCの助成を受け、全国を北海道・東北、近畿、中国・四国、中部、九州、関東の8エリアに分け、10月から3月まで順に仙台市、大阪市、広島市、名古屋市、福岡市、さいたま市で勉強会・研修会を開催した。参加者は合計で140事業所、291名だったが、モデルとなる自立準備ホームの事例報告、地域定着支援センターの取り組み、大学教員による「依存症が背景にある加害の理解と支援」がテーマの講演など、エリアごとに地域のニーズに沿った内容にし、お互い顔が見える形で意見交換ができるようにしたことで、相互連携の大切さを確認でき、心強く勇気づけられたという感想が多く寄せられた。また、オブザーバー参加した法務省地方更生保護委員会、保護観察所、矯正管区の担当者などからも高い評価を得た。



スタッフの態勢強化のために勉強会・研修会を実施した



助成団体:一般社団法人 日本自立準備ホーム協議会

<https://nichijyunkyo.com/>



自立準備ホームの対応強化につながるような勉強会を全国で実施できました

ブロックごとの勉強会・研修会に参加したことで、自立準備ホームを運営するうえでの問題点や課題を解決するためのヒントを得ることができたという声を多くいただきました。助成により、このような場を設けることができたことに感謝申し上げます。

一般社団法人 日本自立準備ホーム協議会
保護司 長谷川 正光さん